

レスリング選手の性格特性
—試合前後の情緒の変化とパフォーマンスとの関係—

A study of the relationships between characteristic traits and peak
performances of wrestling players X
—Analysis of characteristic traits' changes before and after the competition—

朝倉利夫*, 和田貴広**, 嘉戸洋**
大館信也***, 滝山将剛*

Toshio ASAKURA *, Takahiro WADA **, Hiroshi KADO **
Shinya ODATE *** and Yukitaka YAKIYAMA *

ABSTRACT

Using the same method based on previous reports (Takiyama, 1988, 1991, 1992, 1993, 1994, 1995, 1996, 1997), we reinvestigated the relationships between changes of characteristic traits and performances of wrestling players in competition. To reveal these relationships in the present study, we performed Y-G trait test for wrestlers (eight different weight classes belonged to K-University) at two times, i.e., before (several months before the competition) and just before (several days before the competition). Based on the present results, we confirmed previous findings. That is, most old wrestling players showed a D-type characteristic trait and they did not show typical characteristic changes just before the competition. However, the present results showed variable ones, two A-types, two B-types, two C-types, one D-type and one E-type. In addition, wrestling players obtained good performance in the present competition showed definitely changes of characteristic changes just before the competition. Thus, the present results confirmed previous reports and indicated that recent young wrestling players have variable characteristic traits probably dependent on variable their daily life. Then, variable training methods need to create for adapting to individual wrestling players dependent on their different characteristic traits.

はじめに

競技者が最高のパフォーマンスを発揮する要因は多種多様である。その要因を大まかに分類す

ると、競技者の身体的側面（体力、技能、技術など）に関わる要因と、心理的側面（情緒、気力、性格）に関わる要因に分けることが可能である。筆者らは、競技者の競技力向上を図る目的でこれ

* 国士舘大学体育学部レスリング研究室

** JOC（財）日本レスリング協会専任コーチ

*** 韓国国立体育大学大学院

らの要因の中から特に内面的側面として「精神力」を取り上げてきた。これは、各種目において共通することであるが、ことに对人種目である格闘技においては、究極の場面において、ともすれば身体的優位を凌駕して、心理的優位性が勝敗の決定に及ぼす比重が極めて高いことを常日頃痛感しているからである。今日まで筆者らは、競技力向上を目的として、内面的な側面を科学的に解析する目的で性格検査として広く受け入れられ、信頼性の高さで定評のある、矢田部・ギルフォード(Yatabe-Guilford) YG性格検査(以下YG検査という)を使用して、試合前に動揺しやすい選手の内面を把握することに成功した。これは、YG検査を競技者の心理的变化が顕著に起こることが考えられる大きな試合(特にオリンピック大会や国際大会など)前後で実施し、同じ条件下でどの性格タイプの者が、どのような情緒的变化を来すかについて調査した。その結果、今まで漠然と、しかも経験的に捕らえられていた競技者の試合前の情緒的变化が、実際の試合結果と大きな関わり合いを持つことが分かってきた。それは、YG性格検査の性格類型と情緒尺度(O:客観性、D:抑うつ性、N:神経質)にそれらが如実に反映されていることが分かってきた。言い替えれば、「心理的側面の変化を科学的にとらえられるようになった」ということである。

そこで本研究は、これらの一連の解析をもとに、試合2日前(計量日の前日)及び、試合直前日

(計量通過後の夜)の情緒の変化と競技成績との関係について把握する目的で、平成17年12月21日～23日まで代々木第二体育館で開催された、平成17年度天皇杯全日本レスリング選手権大会でのK大学の選手及び、卒業生について、同様の方法を用いて、選手の情緒的側面の変化と実際の競技成績との関係について調査・解析し今後の選手育成の一助にしようとするものである。

対象と測定方法

被験者は、各大会で予選を通過し平成17年度天皇杯全日本レスリング選手権大会出場のK大学レスリング選手7名及び、K大学の卒業生で韓国国立体育大学大学院生1名の合計8名を対象とした。表1に、氏名、スタイル、階級、年齢、今回の成績、過去の成績を一覧表にして示した。選手の情緒的变化については、前回と同様にYG性格検査を3回実施した。スタイル、階級により試合日程が異なるために3回とも各選手によって異なるがK大学選手については、普段の性格特性を把握する目的でシーズンオフの4月の試合が無く比較的にリラックスした時期に実施した。卒業した選手については平成17年3月初旬に実施した。2回目はスタイル、階級により実施日は異なるが、減量の苦しみと、試合への不安が情緒の変化として如実に現れると思われる日時を設定し計量前日及び、試合前日の計量後の夜の12月19日、20日、21

表1 平成17年度天皇杯全日本レスリング選手権大会出場者氏名、スタイル、階級、年齢、及び過去の成績

氏名	スタイル	階級	年齢	今回の成績	過去の成績
S. O	F	60kg	25	ベスト8	04' 全日本ベスト8・国際大会3位
T. N	F	60kg	21	ベスト8	05' インカレ3位
K. O	G	60kg	20	初戦敗退	05' 新人戦 1位
T. T	G	74kg	21	第3位	04' 全日本 1位・国際大会3位
M. M	F	96kg	20	初戦敗退	05' インカレ3位
T. S	F	96kg	20	初戦敗退	05' JOC杯 1位
K. S	G	96kg	21	ベスト8	05' インカレ3位
M. T	G	120kg	20	棄権	04' 新人戦 1位

日、22日の間に実施した。YG性格検査の実施方法、その処理方法等は先の報告の通りである。

結果と考察

1. レスリング選手の性格特性について

表2に、平成17年度天皇杯全日本レスリング選手権大会出場選手8名の性格類型比率をまとめて示した。

YG性格プロフィールの類型に準じ、得られた対象者8人の3回の性格プロフィールから5つの型に分類可能であった。その結果から、平凡型（A-型：平均型）を示した選手が2名（25%）、右より型（B-型：不安定積極型）を示す選手が2名（25%）、左より型（C-型：安定消極型）を示した選手が2名（25%）、右下がり型（D-型：安定積極型）を示す選手が1名（13%）、左下がり型（E-型：不安定消極型）1名（13%）であった。

これらの性格類型の内訳から、すでに報告されているスポーツマンの性格の典型とさせているD-型：安定積極型を示す選手の減少がみられ、性格特性の分布が従来の報告とは異なるものであった。注目されることは、今日までスポーツマンとしては、どちらかと言えば異端視されていた性格特性を持つ、B-型：不安定積極型や、E-型：不安定消極型を持つ選手が増えてきたことである。この傾向は近年特に顕著であり、筆者らが、この研究を始めて以来10数年が経過したが国際的試合において活躍している選手にもこのB-型や、E-型の持つ選手がみられ、従来はD-型の性格特性を示す選手はスポーツマン的性格と呼ばれ、

表2 性格特性の人数とそのパーセンテージ

A-型（平凡）	2名（25%）
B-型（不安定積極型）	2名（25%）
C-型（安定消極型）	2名（25%）
D-型（安定積極型）	1名（12.5%）
E-型（不安定消極型）	1名（12.5%）

N=8

競技者として最も好ましい性格であるとされてきたが、しかし、生活環境の変化、時代の変化に相応して選手の内的側面において従来では考えられなかったような性格特性を有する選手が出現し、選手の心理的側面において質的な変化が確実に起こっていることを示している。したがって従来の決まりきった画一的な選手管理の方法では対応できないことを示唆しており技術面、体力面での改変と平行して、指導者は常日頃から個人のパーソナリティを十分考慮しておかななくてはならない重要な問題である。

2. 情緒の変化と競技成績との関係について

先の報告において、対象者全員の各尺度の平均値について検討を試みたが各選手の特徴が相殺され事実の解釈が不可能であったことから、今回は各選手の特徴について、個々に考察することにした。付言すれば、今までの日本人的な発想の原点として、物事すべて平均的に見ようとする発想（中庸の精神）があり、成功する例が多かった。しかし、世界の頂点に立つための知見を得るためには、この発想がかえってマイナスで、他とは異なった特徴的なものに注目する重要性が示唆される。そこで今回は対象者個々について考察することにした。

D-型について、

図1は、D-型を示した、今大会フリースタイル60kg級ベスト8位のS. O選手のものである（表1参照）。選手の評価は、全日本のトップクラスで、その実力は高く評価されている。ことに、国際大会での活躍が目立ち2005年10月米国アリゾナ州サンキストで開催された国際A級大会においてアテネオリンピック大会3位の選手に競り勝ち3位に入賞をした選手である。情緒尺度について、試合直前において著しい情緒変化は示さなかった。先の報告の通り、このタイプの選手は情緒変化をきたさない場合においては十分力を発揮でき

ることを示唆している。実際の場面での全日本選手権大会の準々決勝において今大会最年長のH. S選手戦では試合内容は優勢であったが決定力を欠き取得点が得られず0-0からのクリンチとなり、攻撃の優先権を決定するトスが2R共に相手選手に出たことで失点につながったことで惜敗し上位進出は成らなかった。付言すれば、本人は韓国国立体育大学院生であり修士論文の脱稿のために調整不足であったことは否めない。

B-型について

図2、B-型を示した、フリースタイル60kg級ベスト8位のK. N選手のものである(表1参照)。選手の評価は、高校時代から活躍している選手で

ある。情緒尺度について、試合直前に情緒の不安定を示すC尺度(回帰性傾向:気が変わり易い、感情的である)においてマイナス要因への変化が顕著にみられる。一方、I尺度(劣等感:劣等感になやまされる、自信がないなど)がプラス要因への変化がみられる(図2の※印)。これは試合に対する緊張感の高まりから襲われるマイナス要因をメンタルコントロールすることでマイナス要因を駆逐したものと推察される。これは選手の持つ試合経験の豊富さに由来するものと考えられる。実際の場面では優勝した選手と準々決勝で対戦し敗れたものの普段から対戦しているため精神面では臆することなく充実した試合内容であった。

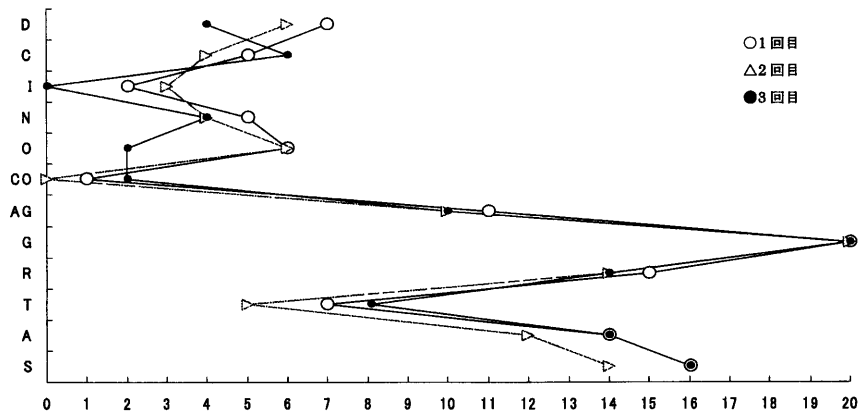


図1 D-型フリースタイル60kg級S. O選手の結果

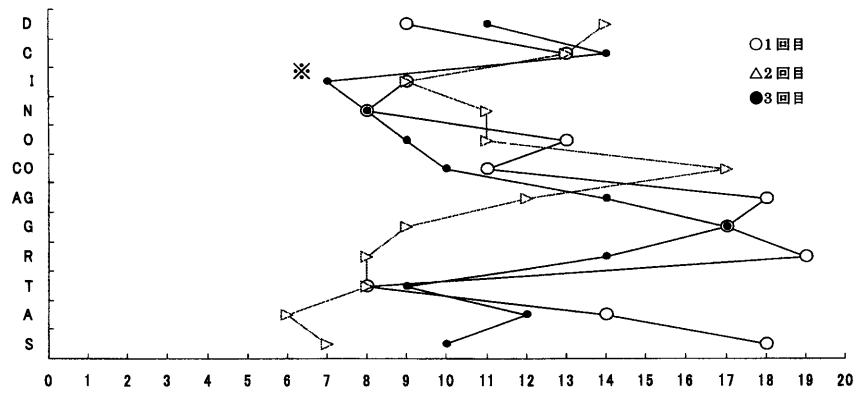


図2 B-型フリースタイル60kg級T. N選手の結果

図3は、B-型を示した、フリースタイル96kg級1回戦敗退（優勝者と対戦）T. S.のものである。選手の評価、高校時代から重量級のホープで将来を囑望されている選手である。情緒尺度について、試合直前に情緒の不安定を示すI尺度（劣等感：劣等感になやまされる、自信がない）、O-尺度（客観性がない：空想性、過敏性）、Co-尺度（協調性のない：不満性、不信性）らの尺度が計量後試合前日（●印が）プラスの要因に変化している。大学2年生であるが高校時代から幾多のタイトルを獲得してきた経験から、試合前に気力の充実が図られ精神的なコンディションの調整ができたものと考えられる。実際の場面では、今大会の優勝者と対戦し善戦の末敗退したが試合内容は良好であ

った。今大会は国際ルールの敗者復活戦が実施されなかったことから上位進出はならなかった。

図4は、C-型を示した、グレコローマンスタイル74kg級3位のT. T.のものである。選手の評価、昨年の全日本選手権大会の優勝者で北京オリンピック大会のホープの一人である。情緒尺度について、試合前の最も緊張が高まる時期に、D-尺度（抑うつ性：度々ゆううつ、陰気、悲観的）、C-尺度（回帰性傾向：気が変わり易い、感情的である）においてプラスの要因に変化している。これは試合前の緊張感の高まりを国際大会始め各種大会での経験、俗に言う百戦錬磨の経験からこのマイナス要因を駆逐する強さを保持している

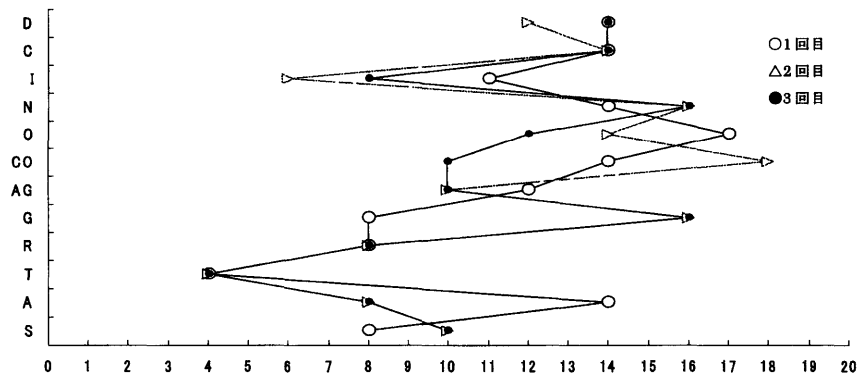


図3 B-型フリースタイル96kg級T. S.選手の結果

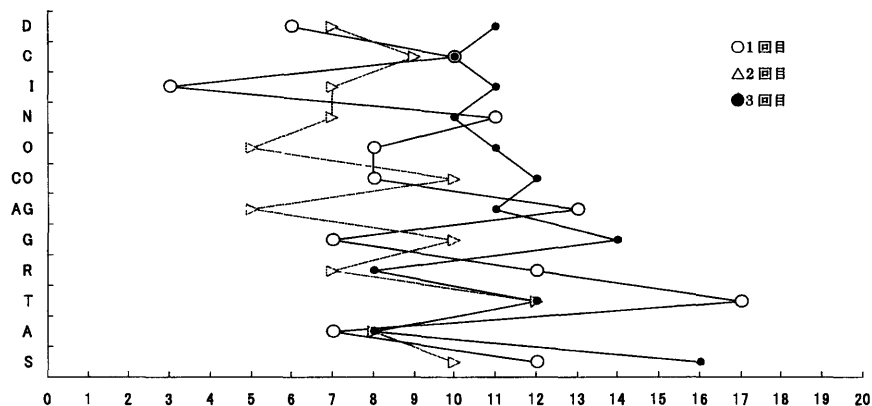


図4 C-型グレコローマンスタイル74kg級T. T.選手の結果

ものと考えられる。実際の場面では、常に冷静沈着な戦い振りでは定評である。

図5は、A-型を示した、グレコローマンスタイル60kg級K. Oのものである。選手の評価、新人戦で優勝し、全日本への出場権を獲得した。初出場のため十分実力を発揮できなかったがパワフルな動きのできる選手であるので将来に期待が持てる選手である。情緒尺度について、計量通過後(●印)のD-尺度、C-尺度、I-尺度、N-尺度、O-尺度、Co-尺度らの項目においてマイナス要因への変化がみられた。初出場のために全てが初体験であったために緊張の高まりをコントロールできなかったものと考えられる。実際の場面でも十分に自分の力を発揮できないままに戦いが終了した。しかし、失点も多かったが、ビッグポイント(5点、3点)を挙げる技ができることから、経験を積むことで飛躍できるものと考えられる。

A-型を示した、グレコローマンスタイル96kg級ベスト8位のK. S選手について、選手の評価、優勝経験もあり、常に上位に食い込む選手である。情緒尺度について、D-尺度、C-尺度、I-尺度、N-尺度らのマイナス要因の項目において変化がみられた。一方、O-尺度においてプラスの要因への変化がみられる。これは試合前の緊張感の高

まりからくる不安感を過去の経験から、状況を冷静に分析することで精神面の充実を図り客観性を高めたものと推察される。

ま と め

平成17年度全日本レスリング選手権大会出場のK大学及び、K大学卒業、韓国国立体育大学大学院生に対するYG性格検査の結果から、A-型2名(25%)、B-型2名(25%)、C-型2名(25%)、D-型1名(13%)、E-型1名(13%)性格類型がみられた。

従来のレスリング選手の性格特性は、典型的なスポーツマン的性格といわれるD-型を示す選手が大半であったが、B-型、E-型を示す選手が顕著に増加していた。最近の性格類型が変化してきている事実は先の報告を支持するものであった。情緒的側面の変化が実際の試合場面において、選手の性格に依存してプラス面にも、マイナス面にも作用することも先の報告を支持するものであった。また、情緒的側面の変化がプラス面への変化を示した選手は好成績を納め、マイナス面への変化を示した選手の競技成績は、概して不振であった。このことについても、先の報告を支持するものであった。

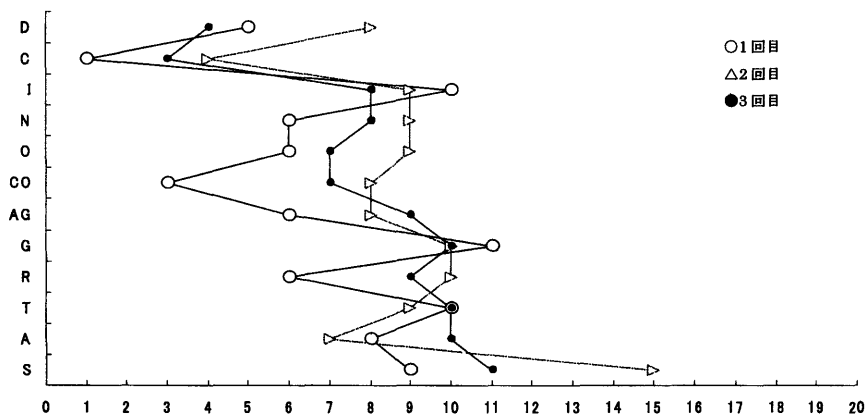


図5 A-型グレコローマンスタイル60kg級K. O選手の結果

謝 辞

本研究は、体育学部付属研究所2006年度研究助成によって実施した。

引用・参考文献

- 1) 小林晃夫；スポーツマンの性格—性格からみた運動技能上達への道—、杏林書院、1986.
- 2) 花田啓一・他；スポーツマン的性格、不昧堂、p.83～92, 1868.
- 3) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性（5報）—第24回ソウルオリンピック大会の試合前後における情緒の変化と成績との関係—、国土舘大学体育研究所報、p.13～19, 1988.
- 4) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化と競技成績との関係—、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No11競技力向上に関する研究、p.206～209, 1991.
- 5) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒変化と競技成績との関係—、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No11競技力向上に関する研究、p.277～279, 1992.
- 6) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化と競技成績との関係—、日本体育協会医・科学研究報告、No11競技力向上に関する研究、p.259～262, 1994.
- 7) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性（6報）；—1993年度世界選手権大会及びエスポアール世界選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係—、国土舘大学体育研究所報、Vo12, p.7～12, 1993.
- 8) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合直前の情緒変化と競技成績との関係—、日本体育協会医・科学研究報告、No11、競技力向上に関する研究、p.291～294, 1995.
- 9) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性（7報）、—第21回内閣総理大臣杯全日本学生レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と試合成績との関係・試合成績との関係・優勝チームK大学の場合—、国土舘大学体育研究所報、Vo14, p.11～14, 1996.
- 10) 滝山将剛；レスリングの性格特性（8報）、—第23回内閣総理大臣杯全日本学生レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化とK大学の場合—、国土舘大学体育研究所報、Vo16、p.63～68, 1997.
- 11) 辻岡美延；YG性格検査手引き、日本心理テスト研究所、1978.